

稲山会

通信

第30号

2015年1月1日発行

発行人：齊藤雄二 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

平成27年を迎えるにあたり——「親の執念」

現役「山の会」が存続してこそそのOB会であると強く認識しています。一昨年「親の責務」、昨年「親の登攀」とその都度、現役との関わりを述べてきました。

ここで昨年の現役に対する活動を顧みてみる。3月の役員会で、3月30日～4月4日に行われる新人勧誘に関する討議が行われ、今までの経緯、経験により、OBが直接勧誘することが決定された。

これは、白髪の爺さんが直接、新人勧誘することが、少なからず羞恥心に耐えねばならぬことだと何人かが自覚することでもあった。然しながら、役員会のメンバーは、皆それぞれに、4日～5日間を懸命に動き回った。

私が或る山関係のブースで学生と話した時のこと、彼は4年生だと言い「僕が1年の時からあなたのことは知っていましたよ」と話されたことがあった。ひょっとしたら過去に彼にも勧誘の声をかけたのかも知れない。このことから、ここ数年で、山の会はOBが出張って来ていることが知られていたのである。

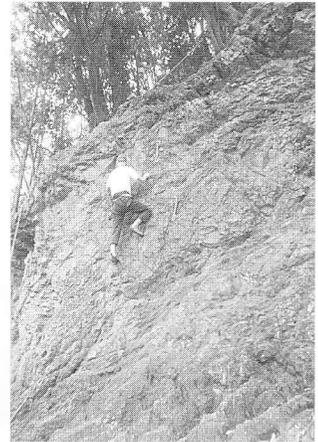
又、直接勧誘とは別に、インターネットのホームページ（HP）での呼びかけも大事であると認識し、内容の充実を図った。効果として今迄になかったことが起きてきた。HPを見て興味がわき、連絡してきた新人が幾人か出てきた。部室まで来た1年生の女子もいた。他サークル在の新人が、そこが物足りなくて「山の会」にアクセスして来た。

新人勧誘期間の直接勧誘、HPによる効果等々により、1年生から3年生までのかなりの人数が入会!! やっと今までの活動が報われたかと思った。が、好事魔多しで、現役のことは「任せて下さい」と言って頑張ってきた4年生の幹事長が、6月に病に襲われ、リタイア。核になる2年～3年生がいなかった為、やる気のある1年生だけが残った。

さあ大変、今まで苦勞して集めた新人を定着させねばと色々手を打つが難しい。その方法に関して役員会の中でも不協和音が聞かれた。互いに意見の相違があることは認めねばならない。が、今までの経過を思えば止めるわけにはいかない。やらねばならぬとの意思を強く確認する。

降りるのは簡単だ。ザイルを1本垂らせばよいのだ。熱い気持ちの仲間が支えてくれることを思うと、どうしても完登しなければならない。こうなると執念というより、もはや意地である。今年も楽観は出来ないだろうが、やるしかない。

役員会のメンバーだけでは限界があります。是非とも稲山会の皆様のお知恵とご協力をお願い致します。役員会任せにはせずに大に関わって下さい。何としても安定定着の日を見たいものです。



▲天覧山RCT：岩を見ると登りだしてしまう上田代表

新年会・総会のご案内

役員会

明けましておめでとう御座います。来年で創立60周年になります。

机の奥から古い「稲山会通信」の1号を見つけました。1998年6月1日発行となっています。「OB会代表より」大国恒雄代表の挨拶、「新年会返信はがきより」清水正昭OB、阪本まさ子OG、徳永義孝OB、里方昭彦OB、勝山宏則OB、肥後朱美OGの皆さんの近況が掲載されています。エッセイは「エベレストで遭難した難波さんのこと」迫田泰敏OBです。「現役の活動」は作増良介4年とあります。昔活躍した皆様・OBGの方々が今年の新年会に参加して戴ける様、お願い申し上げます。

*新年会・総会の日時・場所は2月7日(土)午後4:00 大隅会館です。

副代表 井村英明 記

「春のハイキング・最明寺史跡公園」のご案内

幹事 齋藤延雄 (S45年卒) 松村幹雄 (S48年卒)

今年は、高松山の東側・松田山(550m)の山腹にある最明寺史跡公園を巡るコースを企画しました。公園内には緑の水をたたえる池が有り、木々の芽吹きが始まり山々が微妙な薄緑色に染まる春ともなれば、池のまわりの桜が満開となり野鳥のさえずりを聞きながらの散策が楽しめます。

コースの途中からは丹沢の峰々を始め、相模湾から箱根・富士山を見渡せる素晴らしい景色が広がっていますので堪能いただけることと思います。

下山後は、山北駅前の「町営 桜の湯」への立ち寄りも予定しています。是非皆様ご参加下さい。また学生の方々の参加も大歓迎です。

- 1) 日 時：2015年4月12日(日) 8時50分集合
- 2) 集合場所：小田急線 新松田駅改札口
- 3) コース：新松田駅(9:05発 富士急湘南バス)⇒寄(9:35着)→田代向(10:00)
→鉄塔(11:00)→東屋(11:40)→最明寺史跡公園(12:10着 昼食)
→高松部落手前の分岐(13:30)→尺里(14:30)→山北駅(15:00)
- 4) 昼 食：各自持参下さい。
- 5) 連絡先：齋藤延雄 yuiyui@zg7.so-net.ne.jp 080-4005-3934
松村幹雄 mykof04@s5.dion.ne.jp 080-5175-9695

*ご面倒ですが、参加予定者の概数を把握したいので、参加しようかなとお考えの方は4/3(金)迄に幹事宛にご連絡下さい。

「投稿」 古希登山

上原敏行（S43年卒）

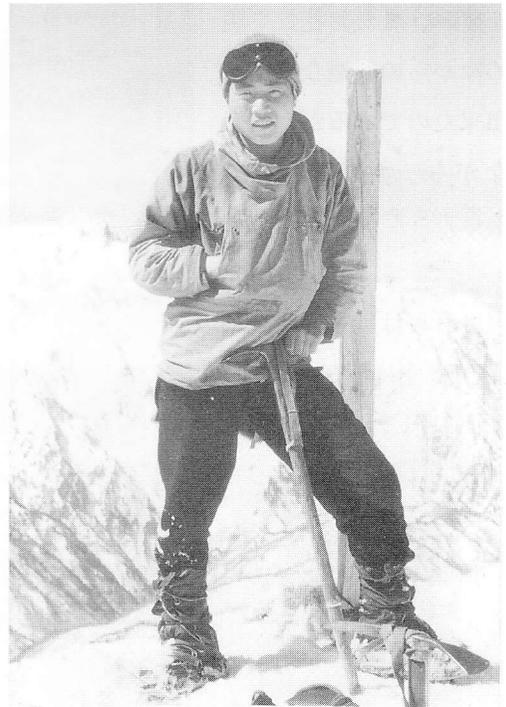
9月3日久しぶりに新宿に出て、映画「クライマー パタゴニアの彼方へ」を見に行きました。その夜、突然私が2年生の時の幹事長であった斉藤雄二先輩から電話を頂き、びっくりしてしまいました。妻から電話を告げられた時、「山の会の斉藤さんから」と言われ、後輩の斉藤君からと、思って電話に出たのですが。

卒業以来山の会ともご無沙汰しており、誰とも行き来していない私には、電話に出て、さらにびっくりしました。話は私が「古希記念に学生時代の思い出の一部である針ノ木岳より五竜岳まで縦走してきた」と2014年度の総会・新年会返信に記したので、それを投稿してほしいとのことでした。電話中には、山の会にはご無沙汰しており、稲山会通信の各号での執筆者は、皆さん山の会との関わりの深い方々ばかりなので、お断わりしようと思いました。が、何か昔のことが思い出されて、承諾してしまいました。

後立山縦走は私にとっては思い出の山行の一つでした。高校時代から山に登っていたので、1年生の時（1964年）の夏山は「剣岳～白馬岳～雲ノ平～穂高岳」という大縦走に魅力を感じ参加しました。リーダーの杉村先輩をはじめ総勢9名の山行だったと思います。今から半世紀前です。

「50年の歩み」で学生時代の私の足跡を辿ってみても、全然思い出せない山行が多い中で、この縦走は色々思い出がある山行でした。

昨年、古希になった記念山行を思案していましたが、体力的にも最後になるのではないかと、思い出の鹿島槍ヶ岳（柏原新道）から五竜岳までの縦走をしようと思いました。30年前頃、物置小屋を消失し、学生時代の思い出の品々（山の写真も含む）も失ってしまいました。しかし偶然ある時に、この時の山行の写真（針ノ木雪渓登行中を含む）と、高1の春山で登った五竜岳の山頂で、一人で写っている写真が見つかりました。



▲高校1年の春山・五竜岳山頂にて

計画プランを練っているうちに、この針ノ木雪溪の写真を見て、当時、後半の荷のデポ地である扇沢まで往復した記憶が思い出され、この雪溪を登行することにしました。

以下山行の記録です。

日程については雨を避け、のんびり景色を眺め、思う存分縦走路を満喫してこようと考えた。20日頃はまだ梅雨も明けきっていなかったが、1週間の天気予報を見て、雨の心配がないと判断し、7月28日～31日とした。梅雨も明け、絶好の登山日和になると確信し、27日、新宿発の夜行バスで扇沢に入山した。

が、あにはからんや、バスを降りると小雨が降ってきた（前の降車地七倉では、星も出ていたのに）。嫌な予感がしたが、大沢小屋付近で朝食を食べるつもりで、身支度を整え、樹林帯の中を出発した。天気良ければ、朝の空気を吸い込み、森林浴を楽しみながら、散策気分でのんびり歩けたらうに、この雨では早く小屋に着きたい気分であった。小屋で朝食後、完全装備に身を固め、百瀬慎太郎のレリーフを後に出発した。

雪溪末端でアイゼンを装着し、晴れていればスバリ岳や針ノ木岳の景観を望み、またお花畑を眺めながらの快適な登山が出来たのであるが、残念ながら一面ガス状態であった。



▲大学1年夏山合宿・針ノ木雪溪にて

2日目は針ノ木岳を越え、種池山荘までであった。この日は天気も快晴で、梅雨明けを思わせる。針ノ木岳山頂では、正面に残雪輝く立山連峰が眺められ、左右にはこれから登る鹿島槍ヶ岳をはじめ、劔岳、薬師岳、背後には穂高連峰など北アルプスの主峰があり、大パノラマだった。

頂上を後に、眼下に黒部湖を見下ろし、この山行の前途を期待しながら、快適な稜線散歩を楽しんだ。小屋に到着し、食後、衛星放送で天気予報を見てみると、今日の快晴から一転して、明日からは崩れそうであった。同宿した茨城の二人（柏原新道から唐松岳までの予定）と翌日からの行動について話し合った。柏原新道を下山しようかと弱気な気も起こしたが、今回の目的が鹿

島槍ヶ岳・五竜岳の思い出山行なので、明朝決めることにし、早めに床に入った。

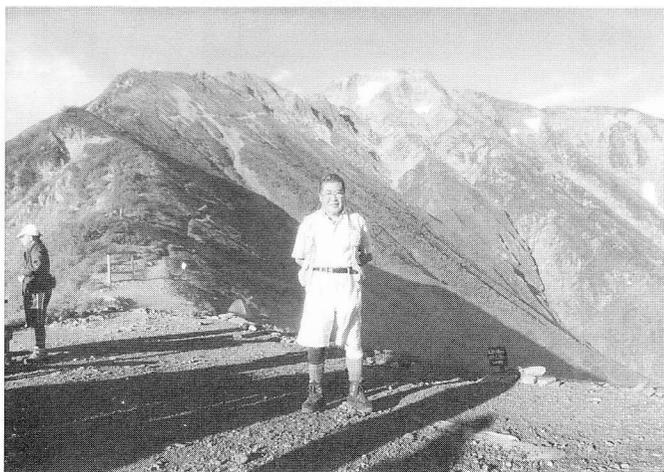
翌3日目、今回のハイライトである鹿島槍ヶ岳・キレット越えであるが、天気は昨晚の予報通り、小雨であった。意を決して小屋を後にした。2年生の時、山本先輩と冬山を苦労して登った頂上も、晴れていれば真正面に見え、快適な登山が出来たのであるが、ただガスの中をモクモクと登った。2、3組の団体が途中で下山していった。天気良ければ、多くの登山者で賑わっているであろうに、その後は人に会わなかった。

山行前には松本清張の「遭難」舞台付近も散策してみたいと思っていたが、そんな気も起らなかった。南峰に着いたが、寒くて、景色も何も見えないので、休まず早々に吊尾根を下った。北峰は巻いて八峰キレットに気を引き締めて向かった。鎖や梯子の連続で、学生時代の重いキスリングを背負っての登高を思い出しながら、そして緊張しながら歩いた。ガスの中で小屋が真正面に見えた時はホットした。

4日目、五竜岳を越え、遠見尾根を下山する予定だったが、今日も雨模様であった。出発を1時間位遅らし、意を決して山頂に向かった。昨日のキレット越えで体力を消耗したのか、また期待した展望が望めずガッカリしたのか、ピッチが上がらなかった。ほとんど人とも会わず、モクモクと頂を目指した。

予定では、山頂で、高校1年の春山の時のポーズで写真を撮ってもらうつもりであったが(写真をこのために携行)、誰も山頂にはいなかった。鹿島槍ヶ岳と同じく、展望も無いので休まず下山し、五竜山荘に入った。11時半過ぎで、まだ早い時間であったが、テレキャビンやバスの時間を考え、また明日の天気を期待して、本日はここに宿泊することにした。幸いにも、種池山荘で同宿した茨城の人(前夜は冷池泊)と再会し、痛飲した。

5日目、ようやく晴れて、小屋前から堂々とした五竜岳の姿を見ることが出来た。小屋前にいた長野県山岳遭難救助隊の人に写真を写してもらった(この山行での唯一の人物写



▲古希記念登山・五竜山荘前にて・五竜岳を背に

真)。下山は、昨日半日休養し、また天気も良かったので、晴れ晴れとした気分で、遠見尾根からの五竜岳・鹿島槍ヶ岳を眺め、快調に下山した。途中、中遠見付近で、熊のフンを見つけた（新越山荘には遠見尾根で熊が2日前に出没したとの貼りだしがあった）。

テレキャビンの山麓駅で、バスの時間迄かなり時間があったので、ゆっくり風呂に入り、5日間の汗と埃をとり、冷たい生ビールで時間を過ごした。



▲古希記念登山・遠見尾根から五竜岳と鹿島槍ヶ岳

以上のように、思い出山行を期待して行っただけですが、核心部ではただ雨の中を歩いただけでした。

本年も思い出の地である雲ノ平を歩いてきました。コースは、折立～太郎平～薬師沢小屋（泊）～雲ノ平～高天原（泊）～黒部源流～三俣山荘～双六小屋（泊）～新穂高温泉でした。この山行も天気予報を調べて入ったのですが、3日間雨にたたられました。雲ノ平はガスの中にいただけでした。今まで山に入って、雨に降られることは殆どありませんでした。それで本人は晴れ男と自負していましたけれど。またこの山行は4日も山にいて、(最初からの予定でしたが) 山頂をひとつも登りませんでした。

数年前から腰と膝を痛めています、歩けるうちはアルプスに挑戦してゆきたいと思っています。

「投稿」日本百名山完登・山に魅せられて

石原 順三 (S50年卒)

この度私が百名山を完登したということで、名達君から原稿依頼がありました。今まで無事に山に登り続けてこられたのも、山の会で先輩方に山の技術をきっちり教えていただいたお蔭であると、大変感謝いたしております。

仕事は兵庫県で材木業を営んでおります。以前は在来工法の入母屋造りの立派な家が多く忙しくしていましたが、近頃は大手ハウスメーカーの家が増え、若者の都会への流出と相まって取り巻く環境は厳しく、規模を縮小してやっています。

山の会での思い出としては、初めての夏合宿では、岡さんのリーダーのもと、9人で大雪山系を縦走。五色岳から大きく立派なトムラウシ山を右手に眺めて左に行き、楽園のような高山植物が咲き誇る五色ヶ原で晴天沈をし、石狩岳の頂上直下で2頭の子熊を連れた大きなヒグマにバッタリ出合い皆で笛を掻鳴らして5分間程睨み合いましたが、これは心底恐かったです。岩間温泉から廃道を藪漕ぎで詰め、時間切れで天狗岳までしか登れなかったけれど、そこから見た秀麗なニベソツ山の美しさが目に焼き付きました。深田久弥氏が「豪壮で優美、天下の名峰たるに恥じない。登ってないばかりに選外にしたのは実に残念」と述懐された山です。

11月末の富士山。富士吉田の浅間神社からまっすぐに伸びる参道を登り、5合目にテントを張り、原さんのリーダーのもと8～9合目で行った雪上訓練。突風が凄く、アイゼンを軋ませ、ピッケルを雪面に刺しての滑落防止訓練。冬山の張りつめた緊張感に痺れました。2年後に冬の富士山頂に立ったのは大きな喜びでした。

初めての冬山。平井さんのリーダーのもと、13人のパーティで釜トンネルを抜け、上高地にテントを張り、真っ白の明神岳を真上に仰ぎ見た感動。須田さん、李さん、箕打さんらOBの余裕しゃくしゃくたる態度は誠に頼もしかったです。蝶ヶ岳に行く長堀山までの腰までのラッセル。稜線で雪洞を掘り、猛吹雪の中入口が塞がれてしまい、夜息苦しくて目を開ければ酸欠でローソクの火が消えており、焦って掘り出て吸った冷たい空気の美味しさ。4日間も閉じ込められましたが、強風が吹き荒れる真っ白の北アルプス最高でした。

初めての春山。5月の連休に坂本さんのリーダーのもと、森OB、倉川君、深沢君の5人で白馬沢から小蓮華山の尾根を詰め、白馬岳、杓子、鏝、不帰嶮を通り唐松岳から八方尾根をグリセードや尻セードを楽しみながら下山。冬山の厳しさが残る春山は何と素晴らしいものかと感動しました。森さんの豊かな見識、不帰嶮での卓越した技量はさすがでした。

山スキーをやりたくて大学から始めたスキーは、ワンゲルの友達と2月に至仏山の頂上から尾瀬ヶ原に向かって一気に新雪を蹴って滑り降りたのも楽しい思い出です。後にスキーは1級を取得し、子供達もそれぞれ1級や2級を取得しました。

卒業後はファミリー登山ばかりです。子供達はみんな6ヶ月ぐらいから背負子に乗せて登りました。小さいときは近畿、中国、四国と近くの山を登っていました。

百名山はほとんどが中部以北なので、兵庫に住む私にとっては最初から無理なことだと思っていましたが、45歳頃に数えてみると50座を超えており、それじゃ少しずつ百名山を登ってみようか、山に魅せられた人生、いい生きた痕跡を残せるのではないかと考えました。



▲妙高山・H6年

しかしながら残っている百名山を求めると誠に遠くの山ばかりで、平日に休めるわけもなく、時間を生み出すのが大変でした。北海道と青森、秋田、岩手以外は車で

行きましたが、仕事を終えてから一晩に500キロ以内なら近いという感覚になり、鳥海山や宮之浦岳では一晩に900キロ走りました。ガイドブックの1泊2日は1日です。登り始めの数時間は頭がフラフラですが、次第に山の空気に浄化され登っていけました。

鳥海山は大きくて美しい山容が魅力の上、雪渓あり、お花畑あり、最後は大きな岩山となって変化に富んでおり、正に1級品の山でした。

宮之浦岳は屋久島へフェリーで渡り、荒川口を朝3時に出て淀川口まで1日で走破。樹齢3千年とも7千年ともいわれる縄文杉を目にしたときは、神秘的感動を覚えました。又、この縄文杉を子供たちに見せてあげられた喜びもひとしおでした。

利尻岳は飛行機を乗り継いで行きました。土曜の朝家を出て、利尻島を一周して観光し、北麓野営場にテントを張り、夜に居酒屋で食べた名物のパフンウニは最高に旨かったです。朝3時から鴛泊コースを登り、杓形コースを昼前に下山し、温泉で汗を流して2時半の飛行機に飛び乗ったら、夜には家に着き、車に比べ飛んで行くのは何と体が楽なことかと実感しました。一般に鴛泊コースの尾根道をピストンする人がほとんどですが、杓形コースは岩場で迫力があり、親不知子不知に背負子投げの難所を越え、三眺山から振り返る利尻西壁の眺めは圧巻で、利尻山ではなく正に利尻岳と呼ぶべき立派な山容でした。頂上から望むオホーツク海や日本海に礼文島の景色は洋上の独立峰故の別格の美しさでした。

家内は八丈島出身なので、八丈富士にはよく登りました。大きく深いカルデラは素晴らしく、お鉢巡りでの太平洋や八丈小島を見渡す美しさは利尻岳とよく似ています。標高が854mと低いのが残念ですが、200名山には入るいい山です。又、清水先輩が会報でこの山に登られたのを知り嬉しくなりました。

百名山の中で予定が立ちにくいという点で一番行きにくいのは、幌尻（ポロシリ）岳だと思いました。この時は末っ子一人連れての三人だけでしたが、額平川を幌尻山荘まで渡渉を15回程繰り返します。私の行ったときは、行きは楽しい膝くらいの渡渉だったのですが、登頂後の夜、雨になり、大きなカールの底なので沢は一気に龍になりました。何度も流される事故がおきているので、幌尻山荘から下山禁止令が出て、これがいつ解除されるのか見通しが立ちません。この小屋は食事の提供は無いので、予備の食料を少しずつつかじってじっと我慢です。幸い明るる日解除

になって下山しました。しかし沢はすごい水量で、しかも流れが速く、腰までの渡渉となり、家内も一度流されかけ、正に命からがら脱出しました。

ガイド付きのパーティも多く、ザイルで確保しながら渡っていました。渡渉には昔ながらの地下足袋にワラジと考えていたのですが、安全第一と家内が言うので沢靴を用意しました。これが大変な威力を発揮し安定感抜群でした。今となっては恐かったけどあれが一番面白かったと家内は言っています。行きにくい故に百名山の最後にこの山に登る人が多いのですが、歳がいつから登るのは大変危険だと思いました。

ある時家内から、子供たちが揃って参加してくれるのももう何年も無いと思うので、あなたの百名山達成は先の楽しみにして、北アルプスのいい山に連れて行ってあげたら、と意見されました。それじゃ一番の劔岳に連れて行ってやろうと思い、劔沢にテントを張って登りました。劔の岩場は流石に難しくみんな大々満足でした。頂上からは夏のRC合宿で行方さんのリーダーのもと名達君、倉川君らと登った八ツ峰VI峰A、B、Cフェースやチンネの岩場を懐かしく眺めました。



▲劔岳・H19年

北、中央、南アルプスはほとんど大学時代に登ってしまっていて、肝心のいい山に連れて行ってなかったわけです。その後、槍ヶ岳へ、槍沢からの槍ヶ岳は誠に立派でした。又、涸沢にテントを張り日本一の紅葉を堪能し奥穂高岳にも行きました。

百名山のフィナーレは一番行きたい、あの大きなトムラウシにしようと、途中から考えるようになりました。しかし延々と続く登りで、家内からこんな大変な山最後にせずに、もっと楽な山を残しといてくれたら良かったのにと、ほやかれましたが、大きな雪渓を上り詰めると、お花畑あり、最後は立派な岩山となり、又、夜中には美しい天の川も見られ、本当に素晴らしい山に登ったとテントの中で皆に喜ばれました。

山頂での記念写真の時には、嫁いだ娘がザックから横断幕を取り出してきて写真を撮りました。全くのサプライズで大変嬉しく宝物の写真になりました。そして翌月にはニペソツにもみんなで登り、家族全員を巻き込んだの山登りは完結しました。

その他百名山のアルプス以外で特に良かった山は、羅臼岳、羊蹄山、岩手山、安達太良山、磐梯山、飯豊山、燧ヶ岳(冬)、谷川岳、八ヶ岳(冬)、妙高山、白山、大山(冬)、石鎚山、久住山と次々と思い出されます。美味しい珍味に旨い地酒、ひなびた温泉、土地の人との会話、どんな山奥にも人家があり人が生活しているという驚き。山に付随する魅力は尽きません。

現在ピークに立った内外の山の数は延べ660座となっています。今秋も針ノ木岳、蓮華岳、甲斐駒ヶ岳と登りました。針ノ木岳は大学4年のゴールデンウィークに岡安君、村田君、角田君の4人で笠ヶ岳から三俣蓮華、鷲羽、野口五郎、烏帽子と縦走し、針ノ木の手前の七倉岳から下山し

残っておりました。針ノ木の山頂からは、1350mの高度差をスパーと切れ落ちて黒部湖が真下に見える圧倒的な高度感他では味わえない素晴らしいもので、文句なしの百名山でした。

御嶽山の爆発には誠に心が痛みます。火山性地震が多発し、明らかに普段と違う異常状態だったのに、噴火云々は別としても、ちょっと異変が起きていますよと、なぜ登山者に連絡してくれなかったのか憤りを禁じえません。私は34歳の時、冬に単独で登りましたが、たまたま噴火に遭遇しなかっただけだと思うと恐ろしくなりました。百名山の中には火山が30座あり、子供たちもそれぞれ百名山を13~38座登っていますが、もう火山には行かないようにと家内は言っています。

山以外の話を少しさせていただきますと、山に行くトレーニングを兼ねて30歳からトライアスロンのレースに何度か参加しました。まだこの競技のことを誰も知らない頃でしたが、とにかくロードレーサーでスピードを出して走るのが楽しかったです。ハワイのアイアンマンレースに出てアイアンマンになるのを目指していたのですが、青年会議所(JC)活動が忙しくなり断念しました。JCでは理事長をさせていただき大変勉強になりました。

45歳の時には、憧れの国立競技場のタータントラックを走りたくて、一念発起、マスターズ陸上の100mと110mハードルに参加しました。45~50歳の部の110mハードルでは、スタートラインでびっしり並んだハードルを前にした時の緊張感は痺れるものがありました。結果2位になり、表彰台に上がり電光掲示板に自分の名前が出たのは感無量でした。

フルマラソンは55歳まで毎年篠山ABCマラソンを楽しく走っていました。長距離は苦手なので、トライアスロンをやっていた頃の記録で3時間半位です。段々膝へのダメージが大きくなってきたので残念ながら止めました。山では両ストックで膝をかばっています。

敬遠していたゴルフは48歳から始めましたが、面白さにすっかり嵌りました。ベストスコアーは3年前に出た79です。いつもベストスコアーの更新を目標にして行くのですが、誠に奥が深くなかなか思うようにいきません。プレースタイルはノータッチ、オッケーなしで、カートには乗らず歩きます。山もケーブル等があっても山に失礼なので下から登ります。利尻で同じく百名山を目指している方と話をした時に、百名山はゴルフより高がつきますなと言われ、ほんまにそうですねと相槌を打ったことがありました。

深田久弥氏は山の歴史まで考察して百名山を選んでいるわけで、登る前は必ず氏の本を読んで頭に入れていくのですが、登ってみた感想で百名山とは言えないなと思う山が15座程ありました。これからも300名山の中から目ぼしい山を登り、私なりの百名山を作りたいと思っています。今のところ私が登った山の中ではニベツツ山、芦別岳、八海山、戸隠山、針ノ木岳、蓮華岳、ジャンダルム、農鳥岳、御在所岳、三瓶山、由布岳、高千穂峰を入れたと思っています。



▲トムラウシ山・H25年

現役・OB合同山行 秋の八ヶ岳/天狗岳～硫黄岳～赤岳縦走

今年入会した今村梨沙（3年）と真藤幸暉（1年）が秋の縦走をしたいとの事で、積雪期の候補でもある八ヶ岳天狗岳から赤岳の縦走に出掛けた。2人は今年入会の新人だが、4年生が同行出来ないで、井村OBが何とかに鞭打って同行した。しかし真藤君の父上は100名山を目指しているらしく、真藤君は大分経験を持っている。また今村さんも母上は登山が趣味の一家との事です。

9月19日、学生2人は茅野発10時20分のバスに乗るため、八王子駅を早朝発の各駅停車で甲府乗り換えて、列車代を節約して来た。渋の湯から黒百合平まで2時間位で今日の天場です。

9月20日早朝から天候も上々、遠く北アルプスを背に天狗岳の斜面を登る。何時もは風の強い八ヶ岳も今日は穏やかです。汗を流しながら西天狗岳に着きます。秋の紅葉愛での登山者で西天狗は混んでいました。

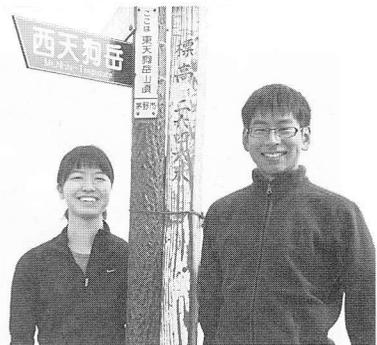
西天狗岳からは急な岩のリッジを下ります。冬はちょっと気を付けるルートです。根石岳を越えると季節には駒草の群落が見られる根石小屋、ここは冬は風が強く、八ヶ岳の三大強風乗越の一つです。夏沢峠までは樹林帯の歩き易い登山道が続き、更に1時間強で硫黄岳のピークに立ちます。

硫黄岳から赤岳鉱泉に下り、今日の天場で、さっそく夕食の準備に取り掛かります。炊事も手慣れたもので、暖かい夕食が待ちどろしいです。天幕だけでも20張以上と天場は大賑わい、登山者で一杯です。

9月21日 赤岳鉱泉からサブザックで赤岳往復です。今日も天候は申し分なく、1時間強で行者小屋、そこから地藏尾根を登ります。途中から鉄製階段を登れば、天望荘近く、稜線に達します。最後の稜線を40分程で赤岳のピークです。

文三郎ルートを駆け下り、行者小屋経由で赤岳鉱泉に戻りました。北沢を縦走の余韻に浸りながら美濃戸口に下山しました。

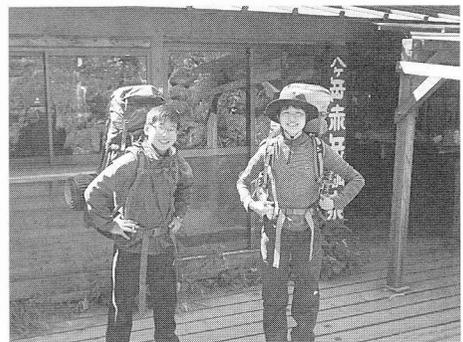
報告・井村英明（S40年卒）



▲西天狗だけにて現役2人



▲赤岳にて現役2人



▲赤岳鉱泉にて現役2人

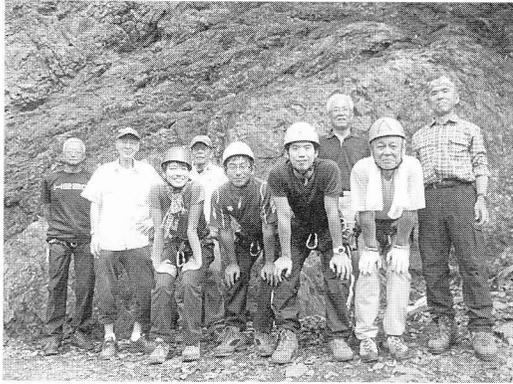
現役・OB合同 天覧山RCT

日 程：2014年 8月31日（日）

山 域：天覧山

参加者：OB：上田訓央（S33年卒）、井村英明（S40年卒）、新井昭夫（S46年卒）、
島田弘康（S46卒）、亀田吉史（S52年卒）、豊田紳二（S46年卒）夫妻
現役学生：角田昌彦（4年）、真藤幸輝（1年）、今村梨沙（3年）計9名

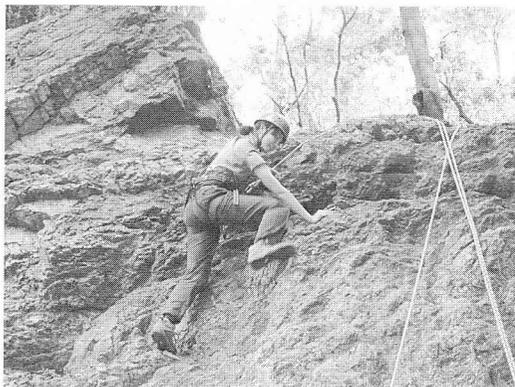
「卒業したら皆同じ」は下界でのお話。山に入れば、卒業から40年経っても先輩・後輩の厳しい関係は不変です。OBのなかで、一番若い亀田OBが現役男子2名を担当、2番目に若い豊田OBが女性2名のコーチングを担当。上田・井村OBから激しい叱咤激励がありました。



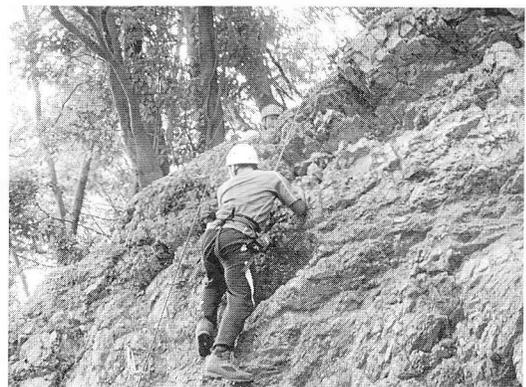
▲天覧山RCT・全員集合



▲天覧山RCT・現役角田君



▲天覧山RCT・岩になれた現役今村嬢



▲天覧山RCT・現役真藤君

まず、3点支持の基本動作。ザイル無しで高さ2・3米の上り下り、左右へのトラバース練習。岩に慣れてきたところでアンザイレンし、10数米の壁を登る。

午後、ザイルで確保の基本動作。4人の登りがかなりスムーズになる。最後に壁を登って、アップザイレンで下る練習。

豊田紳二（S46年卒）記

第14回気象部OBG会

日 時：14年11月3、4日

場 所：千畳敷ホテル、カール散策

参加者：宮野準治（S35年卒）、恩田和夫（S37年卒）

青木一隆、古林美穂子、栗又功雄（S38年卒）

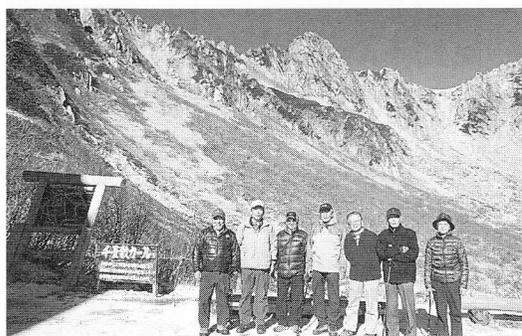
金子治雄（S41年卒）高岡勝（S42年卒）

気象部OBG会は、今まで下記のように温泉で行い、翌日ハイクを実施して来ました。しかし、昔から充分気象研究を行って来た我々気象部に、天が更なる試練を与えてくれたごとく、過去13回の内、旅館から1歩も出られない悪天候が4回もあり、更に2回はハイク途中雷雨や横殴りの雨に遭遇いたしました。

第1回	98年10月	下諏訪温泉	
第2回	00年11月	白馬村落倉	梅池自然園
第3回	02年10月	芦安村	夜叉神峠～高谷山
第4回	03年9月	乗鞍高原	乗鞍岳（追悼登山）
第5回	04年10月	岳温泉	安達太良山
第6回	05年10月	那須湯本	茶臼岳（荒天中止）
第7回	06年10月	蓼科親湯	坪庭・北横岳
第8回	07年7月	新穂高温泉	西穂独漂
第9回	08年6月	上諏訪温泉	霧ヶ峰
第10回	09年10月	湯桧曾温泉	天神平・谷川岳（雨天中止）
第11回	10年5月	奥鬼怒温泉	鬼怒沼（荒天中止）
第12回	11年6月	11月	震災被害に配慮して中止
第12回	12年7月	白馬村	八方尾根
第13回	13年10月	酸ヶ湯温泉	八甲田山（荒天中止）

今年度は、涸沢より400m高い標高2600mの千畳敷カールで、新雪に触れるOBG会を計画いたしました。OBG会の翌日は、雲一つない絶好の快晴に恵まれました。新雪は思ったより少なく、登山道は凍結している部分もありましたが、稜線までの誘惑に堪えながらも、カール内のトレッキングを堪能しました。夜半の満天の星、当日は海のごとく深いコバルトブルーの空を眺めるのは久しぶりでした。

金子 治雄（S41年卒）記



▲気象部・千畳敷・全員集合



▲気象部・千畳敷・乾杯

白山山麓紀行

S41年の同期会はここ10年、年数回の山行を実施してきましたが、最近は歳相応に、歴史や文化を訪ねての峠や史跡の散策等に変えてきました。同期に金沢に住む沼田兄がおり、平成19年夏には沼田邸に泊まらせてもらい、白山山行をしています。今回は沼田兄の協力のもと金子兄が企画を練り、白山山麓の自然と歴史と文化を訪ねる旅が実現しました。

日 程：9月10日～12日 全日快晴

参加者：稲吉豊・金子治雄・小島俊一・杉村慎一・沼田代四郎・斉藤雄二

行 程：9月10日に金沢に集合し、トヨタレンタカーのアルハードを借り、行動を開始。地元の沼田兄に運転を任せる。白山スーパー林道を登り、ふくべの滝を見上げた後、秘湯の中宮温泉・にしきや旅館に宿泊。

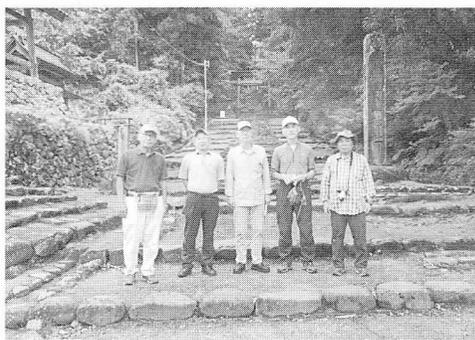
9月11日は、まず福井県立恐竜博物館を訪問し、恐竜達とたわむれ、その後、今回の目玉である白山平泉寺を訪ね、かつての僧兵達に思いを寄せ、越前大野城を訪ねた後、昼食でおいしい蕎麦を食べた。その後、越前一条谷を訪ねて朝倉家を偲び、永平寺で祈祷した後、丸岡温泉・たけくらべに宿泊。



▲白山山麓・中宮温泉・全員集合



▲白山山麓・恐竜博物館にて



▲白山山麓・平泉寺参道にて

9月12日は、越前大野城を訪ねたあと、九頭竜川の河口である越前三国湊に行き、龍翔館を訪ね、エッセル堤まで行って、近くで海鮮の昼食を食べた。昼食後、加賀大聖寺の山の文化館（深田久弥記念館）を訪ね、加賀湖津町の雪の科学館（中谷宇吉郎記念館）を訪ねた。ここで今回の充実した自然と歴史と文化を訪ねる旅を終えた。

斉藤雄二（S41年卒）記

秋のハイキング「日向薬師」のご報告

幹事 齋藤延雄 (S45年卒)

松村幹雄 (S48年卒)

2014年の秋のイベントは例年の山小屋1泊(BBQとハイキング)からより気軽に参加出来る日帰りハイキングに企画を変えてみました。

10月19日(日)、OB13名と学生4名、計17名の老若男女が参加して素晴らしい秋晴れの下のおびりと里山のハイキングを楽しみました。広沢寺温泉口を10時に出発。途中、滑岩でロッククライミングの練習を眺めたり、大釜弁財天を拝んだりしているうちに、登りの山道になり日向山山頂に着きました。昼食後、日本三大薬師の1つ日向薬師に下り、樹齢800年の杉の木も見ました。展望台を経て、14時前には七沢温泉に着きました。ひと風呂浴びてバスで本厚木に戻り、16時から駅前の居酒屋で全員参加の賑やかな懇親会となりました。

参加者

OBG：清水 (S36年卒)、恩田 (S37年卒)、松村・古林 (S38年卒)、

井村 (S40年卒)、金子・杉村 (S41年卒)、齋藤 (S45年卒)、

島田・新井・福田 (S46年卒)、豊田 (S47年卒) 松村 (S48年卒)

現役：角田 (副幹事長・文構4年)、今村 (文構3年)、真藤 (理機1年)、

マライア (留学生・今村友人)



▲秋のハイキング・日向薬師・全員集合

現役・OB合同RCT 第2弾

11月16日（日）に天覧山でRCTの第2弾が行われた。

OBでは新規に天野智彦（H4年卒）が加わり、現役では今村譲の友人の留学生（アメリカ人）のマライア嬢が加わった。天気快晴であったが、冬型の天気、だいたい気温は低かった。 編者記

新ホームページへの移行のお知らせ

平成27年1月より現在の「稲門山の会ホームページ」と「現役山の会ホームページ」を統合した新しいホームページを開設しました。両ホームページの内容はそのまま継承すると共に最新の情報が見やすいコンテンツとし、またFacebookともリンクさせて会員相互の情報交換の場としてもご活用頂けるようにしました。新ホームページのURLは以下の通りです。

新ホームページURL： <http://www.waseda-wms.net/index.html>

また、新ホームページでは過去の稲山会通信がパスワード入力で閲覧できます（パスワードはwmsob）。

なお、現ホームページの立ち上げ・運営に携わった金子治雄OB（41年卒）に代わり鳥田弘康OB（46年卒）が今後担当することになります。金子治雄OBの長年にわたるご苦勞およびご尽力に深く感謝致します。

稲門山の会代表 上田 訓央

編集後記

今回はS43年卒の上原敏行OBとS50年卒の石原順三OBに投稿を依頼しました。お二人が喜んで引き受けてくれたのか不明ですが、学生時代と現在の山行を交差させながら、ロマン溢れる紀行を提供してくれました。石原OBの家族で登った百名山には感動します。

上原OBは投稿にあるように、新人の時、S39年の夏合宿で、杉村慎一リーダーの劔岳～白馬岳～穂高岳の縦走に参加しています。20日間の長丁場でした。長い縦走といえば、H16年の夏合宿で、佐々木直之リーダーの穂高岳～白馬岳～日本海の14日間もあります。昔の山行は充実していました。

翻って最近の現役の状況ですが、上田代表の「親の執念」にあるように、OB会役員の爺さまが羞恥心と闘いながら新人勧誘を行い、それなりの勧誘は出来ていますが、新人が定着してくれない問題を抱えています。文科系サークル活動有、また当然のことながら授業有で、楽しい生活を送っている学生諸君が、山の会に入って、山を哲学してもらえれば、学生生活が更に充実すると思うのですが、これは年寄の独り善がりですかね。

では本年が皆様にとってよいお年であることを祈っております。

齊藤雄二（S41年卒）記